

アメリカン・ボード宣教師文書

—同志社女学校女性宣教師を中心として—

〈M. F. デントン書簡一訳および註一〉(6)

坂 本 清 音 監訳
竹 田 清 子
松 波 満 江
吉 岡 弘 子
小 島 紀 子
岩 倉 苗 実
矢 吹 世紀代
檉 本 尚 美
柿 本 真 代

書簡翻訳：前号からの続き

〈バートン書簡 B-3〉【竹田清子 訳】

1897年 8 月 27 日

メアリー F. デントン

日本 東京 市ヶ谷仲ノ町22

拝啓 デントン様

2月3日付のお手紙に正式にお返事を出していませんが、頂いたお手紙はウーマンズ・ボードにお廻ししてあり、書簡で触れてあった問題に

については、検討の上、返事が来ております。暫くの間、あなたのご連絡先が分かりませんでしたので、確かな情報を待っておりました。現在はグリーン博士¹の東京の家に住んでおられて、市中伝道の仕事に携わっておられることは博士から伺いました。ボードの資金が現場の要求を満たすに十分でないということは、[アメリカン・ボード]本部の者にとって大きな苦痛の種になっています。多分、ラーネッド博士²からお聞きおよびと思いますが、女子部に関しては協力関係を再開したいという横井氏³からの提案が来ております。その提案に関してのご自身のご意見、および今の状況下で、そのような協力関係を結ぶことが賢明かどうか、また将来にわたって、その関係は摩擦なくうまく行くとお考えかどうかについて、あなたのご判断をお聞かせ頂ければ大変嬉しく存じます。

お手紙の中で持ち出され、私ではお答えできない1～2の質問事項に関しては、ウーマンズ・ボードに廻しておきましたので、きっと詳しいお返事があったことでしょう。東京でのお仕事と将来の計画についてもお聞かせ頂きたいですし、今の状況が日本でのご活動にとってどのように見えているかのご判断を聞かせて頂けると幸甚に存じます。

こちらでは皆、この秋、大勢の宣教師の方々が帰って来られるのを喜んでお待ちしております。

敬具

ジェームズ L. バートン

1. Greene, Daniel C. (1843-1913) 最初のアメリカン・ボード宣教師として1869年来日。当時「関東地方の伝道は長老派と改革派が担当、関西地方の伝道は会衆派が受け持つ」という取り決めで、神戸に日本ミッションの拠点を選んだ。その後、1874年に新約聖書の翻訳に参加のため横浜に転住。この時期は東京在。
2. Learned, Dwight Whitney (1848-1943) 1873年イエール大学大学院卒業。75年来日し京都ステーションに所属。草創期から帰国まで52年余、同志社の教育に尽力。同志社大学初代学長。

3. 横井時雄（1857-1927）横井小楠の息子として熊本に生まれる。熊本洋学校から同志社に転入・卒業。今治で伝道の後、東京で本郷教会牧師を勤め、『六合雑誌』編集を担当。1897年同志社第3代社長に就任するが、「同志社綱領」一部削減問題をめぐるトラブルのため、1899年辞任。死別した最初の妻は八重の姪みね（山本覚馬の娘）である。

〈デントン書簡148〉【松波満江 訳】

メアリー・フローレンス・デントン

「アメリカにおける日本人のキリスト教化について」

東京 市ヶ谷仲ノ町22

1898年8月22日

拝啓 同胞諸姉へ

最近一番気になっていることは、キリスト教国に留学した日本人がどうすれば帰国してからキリスト教伝道のために力を発揮してくれるかということです。現在海外で学ぶ学生数は数千にも上っています。もしこれらの男女が全てクリスチャンとなって帰国してくれれば、日本はすぐにキリスト教国となるでしょうに。ここ東京では、政府高官の多くが留学経験者である上に大学や研究機関の教授の大多数が皆、外国の大学で得た肩書きを持つ男性であることに大変驚いていますが、この中にクリスチャンはほとんどいないのです。なぜなのでしょう。おそらくこの男性たちの大半は、ミシガン大学やイェール大学、ハーバード大学の留学生なのでしょうが、海外の大学から日本で福音を説くためにキリスト教精神を十分学ぶべきだったはずの人も帰国するのです。彼らのために出来ることは、もっとあるのではないのでしょうか？

ここ日本で大勢の人に伝道することに比べれば、助け手が皆キリスト教擁護派であるアメリカで、一人の人に働きかける方がはるかに簡単なことだと思います。（その上、東洋では慣習が大きな力を持っていますので）全ての影響力がキリスト教の説く福音の前に立ちはだかっているのです。親愛なる友よ、この問題にもっと注意を喚起して、私たちの国アメリカにいる、この

異教徒たちに神の教えを説く機会を見失わないでください。

新しく膨大な問題が日本では次々と起こっています。産業問題も表面化して来ている、と書くところでしたが、いやもう始まっているのです。新しい内閣には進歩的で実践的な思想教育を受けた人もいます。刑務所の改善、労働組合、工場法など、西洋でも大問題となっていること全てが時事問題となっています。学生の大きな願いは英語を身につけることで、そうすれば多くの仕事への道が開かれるのです。

教会は活発です。いたるところで信仰を求める精神が教会員を奮い立たせ、責任ある行動へと駆り立てています。今あるチャンスをもものにするには、委ねられた人力と資金次第で無限であると感じています。ここ東京の教会¹には積極的で熱心な牧師たちがいて、牧師や出会う人々がここでの私の1年の仕事を特別な恩恵と喜びに満ちたものにしてきています。

敬具

メアリー・フローレンス・デントン

1. デントンが所属していた日本基督教団番町教会や霊南坂教会などのこと。

〈デントン書簡149〉【吉岡弘子 訳】

神戸

1899年1月1日

拝啓 バートン博士

アダムズさん¹と一緒に折に、ご親切なお手紙を受け取りました。彼女と会うために10週間ほど前に来ましたので、私の帰国準備は大幅に遅れています。大阪でアダムズさんとダニエルズさん²と別れを告げて、今私は鳥取に向かっている途中です。3月末まで鳥取に滞在したいと願っていますが、ミッションは早く私を帰国させたいようで、今月末には鳥取を離れねばならないと思います。しかし、日本を去るのは早くても2月、もしくは3月末となる

でしょう。それに、ホノルルに1ヶ月滞在しますから、帰国は予想以上に遅くなるでしょう。アダムズさんは一時ひどくお苦しみのようでしたが、今は著しく回復されており、病気以前より丈夫になってくださることを願っています。ウエンライトさん³のことも大変気がかりですが、いつも立ち直りの早い方ですし、完全な「変化」を求めて岡山に行かれたのは良かったと思います。真面目な方ですので、お母さまを日本に呼び寄せて助けていただけたら、彼女だけでなく私どもも助かるのと思います。

ご親切なお手紙を頂き感謝申し上げます。私はハウさん⁴と楽しい休暇を過ごしております。今日ハウさんのところにどれだけ多くの方が会いに来られたか見ていただけていたら、と思います。彼女は真に偉大な働き手です！

敬具

メアリー・フローレンス・デントン

1. Adams, Alice Pettee (1866-1937) アメリカン・ボード女性宣教師。1889年ブリッジウォーター高等師範学校卒業後、1891年来日。岡山市内南部安息日学校教師となるが、市内最大スラム街の悲惨さを目の当たりにし、同年セツルメント岡山博愛会を創立。この地に住み、45年間事業に献身する。
2. Daniels, Mary Bryant (1858-1909) アメリカン・ボード女性宣教師。1882年スミス大学を卒業後、1889年来日。大阪泰西学館、梅花女学校などで教えるかわら、私宅で英語教授をし、日曜学校・九條弘道館・梅田弘道館の援助もした。没後、梅田日曜学校にダニエルズ女史記念教室が設けられた。
3. Wainwright, Mary Ellen (1862-1918) アメリカン・ボード女性宣教師。リボン・アンド・タボル音楽院で学ぶ。1887年5月来日、同志社女学校音楽教師として活躍するが、1897年岡山に転任、専ら岡山北部教会の創立と発展に尽くした。岡山では特に男子青年に大きな感化を与えた。神戸で没。
4. Howe, Annie Lion (1852-1943) アメリカン・ボード女性宣教師。1867年ロックフォード女子専門学校で音楽を専攻、1878年シカゴのフレール協会保母伝習学校を卒業、シカゴで幼稚園を創立、園長を3年間務める。1887年来日、89年神戸市中山手通に頌栄保母伝習所を創立、続いて頌栄幼稚園を開設。日本における幼児教育分野を開拓し、1927年に帰国。

〈デントン書簡150〉【小島紀子 訳】

鳥取

1899年4月25日

拝啓 バートン博士

ウーマンズ・ボードがラーネッドさん¹を今年送り出すことを拒否したと聞いて非常に残念に思います。ウーマンズ・ボードの皆さんは、ここ日本で仕事が急を要していること、今動ける宣教師の数がどれほど少ないかを理解しておられるのでしょうか。アメリカン・ボードがラーネッドさんを送ることができないのですか。それとも、太平洋ウーマンズ・ボードですか。どこかの教会が彼女の支援を引き受けてくれないのでしょうか。彼女のケースは特別だと思います。事実上、帰国中の宣教師なのですから！ラーネッドさんが直ちに来日する道が何とか開かれるよう願っています。

ニューヨーク市グラマシー・パークの東21番通り107番地にいる友人の一人、ミルドレッド・ミンターンさん²のことをお話したいと思います。日本に来てほしいのです。ミンターンさんはプリンマー大学³の卒業生で、天賦の才のある若い女性です。昨年数か月、日本で過ごし、さまざまな方法で私たちの仕事を手伝ってくれました。あれほど日本人を理解し、日本人の心をすぐさま捉える「新参の」人に出会ったことがありません。東京の大きな教育団体で話をし称賛されました。男子生徒たちのための仕事も実にうまくいきましたし、そのやり方も非常に賢明で実践的でした。日本人と接するマナーと方法もこの上なく素晴らしいのです。ミンターンさんが日本で宣教師の仕事を生涯続けることにお母さんの同意を得ることは無理だと思いますが、状況を説明すれば、3年契約で、同志社英学校か神戸女学院に来てもらうことはおそらく出来るでしょう。同志社英学校では教師として大いに成功すると思います。男子生徒を扱う気転と力量がありますし、身につけている学識や献身と熱心さには尊敬の念を抱かれるでしょう。彼女は会衆派ではありませんが、それはたいした問題ではないと思います。むしろ本人が来日すること、

あるいは来日の強い勧誘を受けることは、彼女の親しい友人のピアポント・モルガン氏⁴やジェームス・スクリムサー氏⁵や、その他ニューヨークのお歴々に関心を持たせることに力があるでしょう。もし同志社への若い男性が簡単に見つからないなら、そして、もし見つかったとしても、私はミンターンさんこそアメリカン・ボードが派遣するどんな男性にも負けないくらい成功を収める人物だと信じています。

敬具

メアリー・フローレンス・デントン

1. Learned, Grace Whitney (1876-1962) D. W. Learned 夫妻の長女で、京都で生まれる。Mount Holyoke Seminary を卒業後、1900年から1916年まで日本ミッションの準宣教師として同志社女学校で教える。その後 Dr. William L. Curtis と結婚し、1929年夫の死まで日本に留まる。この時期はまだ正式の宣教師ではなかった筈だが、デントンは Miss Learned が休暇帰国中であり、お金がなくてボードが彼女を送れないと誤解している。
2. Minturn, Mildred (1875-1922) 19世紀半ばの海運王 Robert Bowne Minturn Jr. の7人の子供のうちの四女。Leslie Minturn Allison による伝記 *Mildred Minturn: A Biography* がある。
3. Bryn Mawr College のこと。1885年熱心なクエーカー教徒が創立した名門女子大の1つで、国際的な評価も高いリベラルアーツカレッジ。津田梅子奨学金の留学生（初代受給者は、後に同志社女学校校長となる松田道）の多くはこの大学を卒業している。
4. Morgan, Pierpont (1837-1913) アメリカの5大財閥の1つ、モルガン財閥の創始者。投資家、銀行家、社会奉仕家であり、金融業と産業界を合併し支配する傍ら、芸術品収集に取り組んだコレクターでもあった。
5. Scrymser, James 詳細不詳。

〈バートン書簡 B-4〉【岩倉苗実 訳】

〔デントン書簡 [150] への返信〕

1899年 5月27日

メアリー F. デントン

日本 鳥取

拝啓 デントン様

4月25日付のお手紙に感謝します。中部ウーマンズ・ボードにもお手紙を書いて下さったと思いますが、少し前ほどには、その必要は感じていません。というのも中部ウーマンズ・ボードのご婦人方は、今は神戸女学院に宣教師が必要ということは百も承知だと思しますので。

ラーネッドさん¹の健康を考えれば、この秋、日本への任命は無理だという方針がこちらでは決まっています。彼女の体力を考えると、言語の学習やどの分野の仕事であっても精力的にこなすことは期待できません。親しい友人はみな声を揃えて休息が必要だと言っていますし、彼女自身も同意してまです。とはいうものの、こちらでは英語を教える若い女性2人を神戸女学院に緊急に送りこまねばと気が抜けない状態ですが、今年の秋には適切な人材を送り出せる確信はあります。もちろん、期間付きの派遣です。

住所まで教えてくださった、ニューヨークのミンターンさん²には手紙を送りましたが、まだお返事は届いていません。もしかしたら直接あなたにお返事なされるのかもしれませんが。実際のところ、その職に必要な女性2人は見つかりそうだと断り書きした上で、一応考えていただけないかとお伝えしています。シカゴ〔中部ウーマンズ・ボード〕からの最近の手紙によりますと、この職場を視野に入れて2～3名の若い女性と文通や相談をしているようです。というわけで、ミンターンさんが期間付きで来日して働けるとしても、神戸女学院以外に相応しいところはないと私は見えています。

こちらのミッションでは年次大会でこの問題を取り上げて、宣教師を1人、同志社女学校に推薦するかどうか議論すると思います。ボストンのウーマンズ・ボードはミッションが勧めればすぐに議決してくれるでしょうが、こちらが先に動いて協力したいとやきもきしているように日本人に思われたくありません。そうすれば、私たちの方が学校の運営をしたがっているという印

象を与えかねませんから。

敬具

ジェームズ L. パートン

1. ラーネッド 前出 〈150〉
2. ミンター 前出 〈150〉

〈デントン書簡151〉【矢吹世紀代 訳】

鳥取

1899年9月15日

拝啓 パートン博士

このたびの休暇をご承認いただきありがとうございます。ただし今、このタイミングで休暇の許可が下りたのは心苦しいです。私は大変元気ですし、仕事は今はとても急を要する状態であり、休暇どころではないと思えるからです。日本にもう11年もいたことだけが、休暇を取る条件にあたるという風には私には思えないのですが、ミッションの親切なお心遣いで休暇をいただいたのだと感謝しています。

かなりはっきりしていることは、同志社女学校は大好きですが、東京こそが私の働き場であること、また休暇をいつか取らないといけないのなら、「次」の仕事の準備も兼ねて今が一番いい時期だということでしょう。休暇を最大限有効に使いたいですし、もし太平洋ウーマンズ・ボードが許可して下さるなら、まずはオレゴン州ポートランドへ、それからワシントン州と北カリフォルニアへ行き、常に支えてくださっている会衆派の教会を訪ねたいと思っております。その訪問の後、本拠地をボストンに置きたいと考えています。

—— 判読不能 ——

母は私の姉妹の一人と暮らしており、他の兄弟姉妹もいつでも喜んで私を迎えてくれます。少女時代の終わり頃の話ですが、叔父は私にロサンゼルス

でのホームを提供してくれました。私にとって第二の父のような存在である叔父は今は東部へ移っていますが、日本を離れての我が家と云えば、叔父の家だと思っております。けれども、私はとにかく勉強をしたいのです。世の中の動きに付いて行きたいですし、もし東京で仕事をするようになるなら、なおのこと時代の思潮に通じていなければなりません。バートン様ならここ日本での状況や私の限界をご存知でしょうから、本国での休暇の時間を無駄なく過ごせるようにして下さるものと信じております。

この手紙を太平洋ウーマンズ・ボードの会長と幹事の方にもお送りしますので、ご婦人方が私の今回の帰国にあたりどういう計画を立てているかお聞きになると思います。12月か1月に帰国するのであれば、その計画を1日も早く知りたいです。乗船チケットに関してはまだ何も調べていないのですが、途中下船のできる通し切符を横浜で求めるのが一番お得だと思います。船会社から返事が来ましたら、またお手紙いたします。ハワイで下船する際には、船泊のできる船にしたいのです。このたびの休暇申請の折に、そのことを一緒にお願ひすればよかったのですが…私には休暇に関しての手続きをどのように整えればいいかがよくわかっていません。太平洋ウーマンズ・ボードに私が申請をするのがよかったのかもしれません、結局私からはしませんでした。ミッションが申請してくれたと思いますが、私の休暇中の具体的な計画に関しては、どちらがどのように整えてくださるのか、今もって私にはよく分かっていません。

—— 判読不能 ——

私には何の問題もございません。

ここ鳥取での仕事には大いに興味を持っていましたので、離れるのは本当に辛いです。鳥取の教会¹は覇気がなくてよそよそしく、かつてこんな教会を見たことはありません。一体どうしてこの有様になったのか不思議なくらいですが、この小さな大切な学校²のことを思うと心が痛みます。私がミッションの業務を取り決めることができるのなら、このままここに残って仕事をし

たいです！この7月に鳥取の「出張伝道地」へ向かう途中、京都エリアの丹後半島一但馬地方、福知山、宮津を見て回りましたが、どこでもうれしい気持ちになりました。ローランド氏³が山陰を去らなければならなかったのは返す返すも残念です。この長旅の間、ロ氏に関する話をたくさん聞いたのですが、その半分でもお聞きになったら、あなたのご学友をさぞ誇りに思われることでしょう。ローランド牧師は湯村を離れられたばかりですが、そのことが必ずしも禍根を残したとは思っていません。ロ氏のすぐ後に行かれた田中氏⁴が優れた前任者の手腕以上の力を発揮してくれると信じていますから。

バートン様が中瀬古博士⁵に関心をもっておられることを嬉しく思います。彼を手離してはいけません。博士は京都での仕事に素晴らしい貢献をしてくれると確信していますし、実際本当にいい人です。長年、私は本国の教会に手紙を書いてアメリカにいる日本人への関心を高めてほしいと言い続けて来ました。日本政府の各省庁には、海外留学経験があり本来ならキリスト教徒になるはずだった若者があふれています。私には本国の教会は日本での伝道を広げる最高のチャンスだと思えるのです。

バートレット夫妻⁶は京都を訪問 —— 判読不能 ——

5日間の旅から戻ってこられ、いたるところにある伝道への関心と、受けた温かいもてなしについて報告されています。

ミッションの事柄と、個人的なことをないまぜにして書いてしまい申し訳ありません。この手紙はバートン様ご自身に宛てて書いたものですから、どうか事務所で回覧したり、訪問客や事務局関係者の方にはお見せにならないようお願いいたします。

敬具

メアリー・フローレンス・デントン

1. 現日本キリスト教団「鳥取教会」のこと。正式の創立記念日は1890年2月23日だが、その前史は、1879年同志社英学校第1回卒業生加藤勇次郎の伝道旅行に始まる。

その後、アメリカン・ボード宣教師（J. K. H. デフォレスト、タルカット、ローランド夫妻ら）や、上代知新、綱島佳吉らが出向いて、仮講義所で演説会を重ねつつ教会設立に備えた。

2. 鳥取英和女学校のこと。創立は鳥取教会よりも早く1887年9月7日（タルカット宣教師による）であったが、1899年の「文部省訓令12号」によるキリスト教主義学校に対する規制により、もはや宗教教育が不可能となり、1902年僅か15年で閉校せざるをえなくなった。そのうち5名の生徒が同志社女学校に受け入れられた経緯は『ミス・デントンー同志社の宝と呼ばれた女性の60年』（2007年）60ページに詳しい。
3. Rowland, George Miller (1859-1941) アメリカン・ボードの宣教師として1886年に来日。仙台に赴くがすぐに呼び戻されて、岡山に4年（1886-90）、鳥取に5年（90-95）と活動の拠点を移しながら伝道に励む。1年の休暇後は、北海道巡回伝道師の召命を受けて28年間北海道に留まり、最後の5年（1925-30）は東京で、大使級の宣教師の役割を果たした。パートン幹事と同じく、ミドルベリー大学とハートフォード神学校卒である。
4. 田中氏 1897年～1900年伝道師であった田中稲生のことか（『鳥取教会百年史』年表より）
5. 中瀬古六郎（1870-1945）ハリス理科学校卒業後、アーサー・ジェームズ氏の庇護を受けて、ジョンズ・ホプキンス大学とイエール大学院に学び、帰国後は同志社で長年教員を務める。女学校の教頭（08-12）、校長（18-22）となって、女子教育の高等化に尽くす。理学博士。日本における科学史研究の先駆者。
6. Bartlett, Samuel Colcord (1865-1937) と M. L. ゴードンの長女 Fanny Slater (1874-1963) のこと。氏はダートマス大学卒業後、3年間（1887-90）同志社で教え、帰国して修士号を取り、さらに1894年アンドーバー神学校で按手を受け、同年結婚して再来日。鳥取・小樽で伝道（1912年まで）する。この当時は鳥取ステーション所属。

〈パートン書簡 B-5〉【榎本尚美 訳】

[デントン書簡 [151] の返信]

1899年11月11日

メアリー F. デントン

日本 神戸

拝啓 デントン様

太平洋ウーマンズ・ボードを通じて、9月15日付けのお手紙を受け取ったばかりです。手紙を送って下さるに際し、ジュエット夫人¹は、「太平洋ウーマンズ・ボードは休暇についてのデントンさんの計画に全く同意している」と言っておられますし、私も全く同意見です。あなたが地域の教会を訪ねて皆さんの宣教心を呼び起こして下さいれば、太平洋岸の婦人方にとって大きな助けとなることでしょう。残念ながら、太平洋岸の教会の人たちはまだ十分に宣教精神に燃えていないと思います。あなたはそこで大変役に立つことができますし、その後、あなたの働きを求める地が他にないなら、ボストンは落ち着かれる最も理にかなった拠点となるでしょう。たぶん、ここボストンは研究と社会勉強をするには他のどの都市よりも利点がありますし、その上、ここはボードの仕事の中心地でもあります。この国での暮らしを支援するための充当金—ここボストン市内、または近郊の静かな場所で、快適に過ごされるのに十分と思える額—は必ずお渡しできるでしょう。

あなたはいたってお元気なようなので、今ご帰国されるのは賢明だと私も思います。多くの宣教師はブレイクダウンしてから戻って来られるので、帰国者にとって休暇と言える休暇になりません。日本を出た後で思っている以上に疲れていることに気づかれるかもしれませんが、そう思われたいのなら、元気なあなたは休暇を最高に価値あるものとし、同時に、この国の神の義に対して最大量の援助と刺激を与えることがお出来になります。宣教師が善を受ける場合、同時に自然に善を与えるものですが、私たちはいつもその両方を期待します。もちろん、特別な許可を得なくても、ホノルルに滞在して、1～2便あとの船で帰国するのは適切なことです。あなたがこの国に帰って来られるのを認可するのは、太平洋ウーマンズ・ボードではなく、諮問委員会であった、というのも規則通りでした。

お手紙に入っていた幾つかの一般情報をたいへん嬉しく読ませていただきました。数年前私が鳥取にいたとき²には、ローランド博士³について誇りに思うことを沢山耳にしました。たった今、札幌から受け取った年次報告も、

置かれた場所で、あの方は同じようによい仕事をしていると思わせるものです。私はローランド博士の仕事ぶりに疑念を持ったことは一度もありません。素晴らしい人です。さまざまな点で、日本のために今、博士のような人が数人いてくれたらと願っています。

この手紙をどこにお出ししたら、お手元に届くか分からないので、神戸宛で送ります。もし12月初旬にご出発ならば、もう間に合わないでしょうが、アッキンソン博士⁴がきっと転送して下さるでしょう。この機会に何を持ち帰ってほしいとお願いしたらいいか思いつきませんが、ご親切なお申し出に大変感謝しています。楽しい船旅でありますようにと祈っています。アメリカ滞在を楽しんでくださることと思います。ここボストンでお会いして、もっとお知り合いになれることを楽しみにお待ちしております。

敬具

ジェームズ L. バートン

1. Mrs. Jewett, H. E. 太平洋ウーマンズ・ボードの第4代会長（在任1890-1899）。第3代会長 Miss Lucy Fay の時代（1883-1889）は同会の幹事を務めた。なお1877年以来、*the Pacific* 新聞に毎週ボードの記事を寄稿していた。
2. バートンは同志社騒動の始まる1895年ごろ、アメリカン・ボード派遣委員の一人として来日していたので、鳥取にも行ったのであろう。
3. ローランド博士 前出（151）
4. Atkinson, John Laidlaw (1842-1908) アメリカン・ボード宣教師。1869年シカゴ神学校で按手を受けた後、1873年来日。神戸ステーション所属となり兵庫教会を創設し、後に神戸教会の牧師も勤める。1908年日本で亡くなるまで35年間神戸に在任、神戸ステーションの伝道活動の中心人物であったのみならず、神戸以西の四国・中国・九州へも積極的に開拓伝道に出向いた。

〈デントン書簡274〉【柿本真代 訳】

ドーリック号用箋¹

3月30日 [1900年]

拝啓 バートン博士

おそらく私が当初の計画を諦めたことをお聞きになっていることでしょう。もともとミッションがアダムスさん²を一人では帰さない方がいいと考えていたので、彼女と北回りで帰ろうと思っていたのですが。私はハワイ在住の日本人労働者の伝道のために働く、二人の若い日本人女性³を連れてきており、船泊しております。わかったことは、グーリック一家⁴がアメリカに帰省中なので、ペストによる焼き打ちと隔離のせい⁵で、日本人伝道が危機的な状況にあるということです。伝道のチャンスがこれ以上ないくらいです。日本伝道になくてはならないゴードン夫妻⁶であっても、最終的には、ここに来てもらいたい心境です。私たちはすでに予防の血清を打って来ておりますが、10日には日本丸⁷で出港したいと考えています。オレゴン州ポートランドへのチケットがサンフランシスコへのチケットと同じ代金で買えました。太平洋ウーマンズの方々には、私がすぐにオレゴン州とワシントン州の小さな教会を訪ねることができるよう手配をお願いしています。

何年か前にフィラデルフィアのビンリーさん⁸を通じて、新島先生と同志社の建物を撮った幻灯機用スライドをたくさん本部オフィスへ送りました。そのスライドは他から請求があるまでは使えるようになっているので、それを入手したいのです。[-]の幻灯機を西部で使い、さらに日本へも自分で持ち帰れたらいいのですが、それを購入する余裕はありません。バートン様はこのような援助の願いをたくさん受けておられるでしょうから、多分「いいですよ」のご返事は難しいでしょうね。

日本を離れる前、同志社女学校から休暇の日程を一年先延ばしにして日本へ残って再出発の手伝いをしてくれないかと頼まれました。京都ステーションからは、帰ってきたら女学校へ戻るようにと求められていますが、私が休暇を延期することには、どうしても同意が得られませんでした。

カリフォルニア州オークランド

6月21日

拝啓 バートン博士

ここまでの手紙は投函しないままになっていましたが、申し上げたいことを記していますので、やはりお送りします。オレゴン州とワシントン州で帰国後最初の一ヶ月を過ごし、46回講演をしました。北西部の人々は私たち宣教師と出会う必要を強く感じていることが分かります。そこで、最高の講演者の何人かにこの地域を回っていただき、フルに時間を使って両州で存分に仕事をしていただくことを提案します。もし中国や日本に行こうとする、あるいは帰ってくる宣教師が北回りのルートをとられるならば、ほとんど費用をかけずに、この仕事ができますし、大きな働きになると思います。

私は6月6日の朝オークランドに到着し、その日に行われた四半期ごとの太平洋ボードのミーティングに間に合いました。それからオークランドとサンフランシスコにある教会を訪問していますが、2週間の休養に母親の許へ行く7月2日までは教会巡りを続けようと思っています。それからパシフィックグループ⁹で少し仕事をする予定になっています。まだいつ東部へ出発したいと思っているかは申し上げられません。というのは、南カリフォルニアをまだ訪れておりませんし、母親の許でまだ4日しか過ごしておりませんので。セント・ルイスで行われるボードの年次総会へも参加したかったのですが、南カリフォルニアでの仕事が9月末まで終わらないと思いますし、時間はとても短いので、年次総会はあきらめようと思っています。確かに西部の教会には、誰かを派遣して海外伝道への関心を呼び起こす必要が緊急にあります。

さて同志社女学校についてお尋ねいたします。昨年の7月のミッション・ミーティングで、女学校のために2人の教師と、年間500ドルを要望いたしました。ミッションの任命委員会はその要求の重要さをできる限り強調して書きましたが、5月末に至るまで何のお返事もいただいておりませんでした。

私たちがどれ程、女学校を存続しなければならないと感じているかをバートン様に申し上げる必要はありませんし、それについては充分共感してくださっていると信じております。そしてきっとお助けくださるとも。

1 ボードが同志社女学校への500ドルを太平洋ウーマンズ・ボードに割り当てて下さるなら、太平洋ボードの女性たちは喜んでその仕事を引き受けてくれるでしょう。

2 同志社女学校へ2名の教師を派遣して下さいますか。ひとりは音楽の教師です。

3 しかるべき女性にお心当たりがなければ、私が探しても構いませんか。

4 すべての質問には公式のお答えはいただけないでしょうが、今年の秋には開学できるためには、とにもかくにも第1番目の質問に答えて、1900年7月から助成金が貰えるようにして下さるお積もりなら、(ご存知のように学校は9月に始まりますが)、せめて半年分の助成金でもいただければと思います。太平洋ウーマンズ・ボードは喜んで負担してくれるに違いありませんから。私はとても元気で、本国の人たちと会うのを大いに楽しんでます。

敬具

メアリー・フローレンス・デントン

サン・フランシスコ

Y.M.C.A. ビルディング

ウォルター・フリーア牧師気付

1. デントンがドーリック号の用箋を使っているのは、もともとアダムスに付き添って、3月21日横浜発の英国船ドーリック号でサンフランシスコまで同行する手筈になっていたからであろう(1900年3月24日発刊の *The Japan Weekly Mail* のドーリック号乗船名簿には、アダムスの名前もデントンの名前も記載されている)。
2. アダムス 前出 (149)
3. 2人の内の1人は同志社女学校卒業生豊田谷子(1893年邦語科)である。豊田は今治出身で、卒業後すぐに松江でナッシュ氏(松江聖公会の Elizabeth Nash のこ

とか)の伝道を助けた後、1897年、デントンの所属先東京の番町教会で、片山潜が関係していたキングスレー館の貧民学校で働くために上京。2年後にはデントンの鳥取伝道に同行し、さらにデントンの休暇帰国(1900年)の際には、ハワイ、ホノルルで婦人夜学校及び小学校で教えるためにハワイまで同船した。1903年帰国。

4. Gulick, Orramel Hinckley (1830-1923) 一家。父 (P. J. Gulick) の代からのアメリカン・ボード宣教師一家で、ホノルル出身。日本にはアメリカン・ボード2人目の宣教師として着任し、大阪・神戸で伝道した後、1892年帰国してからは本格的にハワイ伝道を開始していた。
5. ハワイでは1899年末よりペストが大流行したため、1900年1月に感染防止のために一部の地域を焼き払うこととしたが、火は中国人・日本人街にまで燃え広がり大きな打撃を与えた。詳しくは藤井秀五郎『新布哇』文献社、1902、675-690頁などを参照。
6. Gordon, Marquis Lafayette (1843-1900) と妻 Agnes Helen (1852-1940)。最初はアメリカン・ボード宣教師として来日したが、自身、視力を患ったこともあり医業を辞め、大阪・京都で教育と伝道に励む。中国語訳『天道溯源』を贈って、山本覚馬をキリスト教に導いたことは有名。この時期、夫妻は帰国していた。
7. 「日本丸」は3月31日横浜発のホノルル経由サンフランシスコ行き船便である(*The Japan Weekly mail*より)。「ドーリック号」が3月21日発だから、デントンは約10日間ハワイに滞在して、4月10日に「日本丸」で出国したことになる。サンフランシスコからはポートランド・オレゴン行き船便はいくらもあったのであろう。
8. Mr. Binley of Phil. 詳細不詳
9. Pacific Grove 太平洋岸に面した風光明媚な都市。カリフォルニア州モントレレー郡に位置する芸術家の街。ビクトリア朝風の建物も多く、かつてはスタインバック一家も住んだ。

〈半田多喜¹書簡〉【松波満江 訳】

日本 京都 同志社女学校

1900年6月23日

拝啓 デントン先生

アメリカでご親戚や旧知の方々を訪ねながら楽しい時間をお過ごしのことでしょう。日本でのお仕事の話をするためにオレゴン州へ行ってしまわれたと、松田さん²から伺いました。お仕事がうまく運び、休暇もしっかり取れるようお祈りしています。前回の手紙でお知らせした植物は校庭でほぼ花盛

りです。日本は今梅雨の季節ですが、ここ数週間雨は降っていません。農民たちは雨を待ち焦がれ、ほとんど毎晩山頂で火を焚き雨乞いをしています。そのおかげでしょうか、今朝は少し曇っており、雨もほんの少し降っていません。

試験が来週の水曜日から3日間の予定で始まり、卒業式が7月3日に举行されることが決まっています。今は準備のために大忙しです。パートレット先生ご夫妻³は女学校のためにとてもよくしてくださいませ。ご主人は歌を、奥様はオルガンを教えてくださり、卒業式の日奏楽も快く引き受けてくださいました。奥様は生徒が各々の場所へ順番に着席するための行進曲を弾くことも進んで提案してくださいました。在校生は中間の席に着き、卒業生が最前列に座ることになっています。一度練習を試みましたが、とてもうまくいったように思います。卒業生は8人⁴で、その中で秋山さんだけが特別コース⁵の卒業生です。卒業式が終わりましたら、もう一度詳しくお便りいたします。

ベネディクトさん⁶がアメリカに帰られたのはご存知でしょう。おそらくそちらでお会いになるのでしょうかね。

平田さん⁷がお郁さん⁸の赤ちゃんの写真を送ってくださいました。そこには、亡くなられた奥様に生き写しだと書かれています。とても愛らしい、本当に可愛い赤ちゃんです。

今年の夏は京都に留まり、植物採集と調査のために休暇を丸ごと使おうと思っています。心からうれしい出来事があります—12人の女生徒⁹が悔い改めをして、明日の日曜日に洗礼を受けることになっているのです。広津さん¹⁰の婚約者である新島さん¹¹（新島夫人の養女のことですが、おサダさん¹²のことではありません）も受洗することになっています。

ウエストンさん¹³はご親切にも、いつも私の手紙の誤りを正し、送り返してくださいませ。お手紙では、ここ2、3日お具合が悪かったようですが、今はお元気になられ、今年の夏休みは日光と赤倉を訪れるつもり、とありま

した。

おそらくご存知ではないでしょうが、私の妹は脊髄の病¹⁴でひどく具合が悪く、5月4日に手術を受けました。(以下、マイクロが切れている)

別便〈デントン書簡〉

この手紙は、ある卒業生から届いたものです—今は同志社女学校の教師をしています。東京で暮らしていたときは様々な条件にも恵まれ、現在よりも給料も多かったのですが、実際の苦勞と収入の減少という犠牲を払ってでも、母校の女学校に戻らなければならないと感じたようです。できるだけ早く助成金を準備していただきたいという私の願いをより強く訴えるために、そしてバートレット夫妻が京都でどんなに役に立ってくださっているかを分かっていただくためにも、この手紙を同封いたします。

1. 残存する書簡には筆者の名前がないが、内容から半田たきと判断した。中目(半田)多喜(1870-1956)福岡県久留米市出身。1895年同志社女学校普通科、1897年師範科を卒業。その後上京し、英国系聖公会立の香蘭女学校に奉職。植物の研究にも興味があり、小石川の植物園で植物を調べる機会を得て、女性としてただ一人植物学会員になる。1900年4月10日松浦政泰教頭の懇請を受けて同志社女学校に奉職。
2. 松田幸(1876-1940)1894年同志社女学校普通科を卒業後、デントンの鳥取伝道に同行。在学時より音楽に秀でていたため1898年に渡米しミルズ大学・ニューイングランド音楽院で学び、1901年渡独。ベルリンにて研鑽を積み1906年帰国。華族女学校でピアノ教師を勤めつつ、荒木和一と結婚するまで演奏活動を続けた。この時はオークランドのミルズ大学に在学中。
3. バートレット夫妻 前出〈151〉
4. 専門部文学科卒：秋山寅子(愛媛県)
普通科卒：八藤富子、西澤愛子(岡山県)小川泰子(山口県)古川信子(福井県)
邦語科卒：岡田長女子(岡山県)辻内萬子(大阪府)井口宗子(熊本県)の8名(『同志社女学校期報14号』)
5. 秋山寅子だけが専門部文学科の卒業生。卒業論文は「17世紀に於ける日英の交渉」。
6. Benedict, Harriet Miriam (1856-1938) アメリカン・ボード女性宣教師。ウィスコンシン州ロック郡クリントン出身。1892年11月に来日。1894年5月～1896年11

- 月京都、1896年12月～1897年6月大阪、1897年9月～1900年5月神戸で教育と伝道に従事。1900年5月に離日。
7. 平田義道（1866-1934）大阪府出身。堺県立師範学校卒業後、小学校教員をする。教師勤務中の1886年に大阪教会で受洗し伝道界に入る決心をする。88年伝道師、97年按手を受けて大阪教会副牧師、後に横浜紅葉坂教会で牧師を務める（1900-1931）。
 8. 平田（坂田）郁子（1867-1897）宮崎県高鍋出身。1893年同志社女学校専門科神学科で学んだ後、助教として残る。教師としてだけでなく信徒会役員、同窓会役員などを歴任。1896年9月平田義道氏との結婚を機にすべての役職を辞任し、大阪西区江戸堀にて生活を始める。1897年5月17日長女千代子を出産するが、6月20日に乳児を遺して急逝。
 9. 1900年6月24日杉田潮牧師により同志社教会で、以下の12名が受洗。井上きぬ、地主しづ、小川みつ、大井もも江、竹井たかの、長光きよ、村上いくよ、福田（湯浅）ろく、伊藤（宮脇）とみ、玉井てい（貞）、廣津（新島）はつ、大西しめ（『同志社教会歴史名簿』）
 10. 広津友信（1865-1937）福岡県柳川出身。1889年同志社を卒業後、新島の懇請で新潟教会伝道師に就任。新島の没後1891年に渡米し、イエール、ハーバード大学に留学。卒業後1899年、同志社に戻り同志社校長心得に就任するが、学内内紛の余波を受けて、2年後には辞任。岡山の第六高等学校の英語教師（1901-1920）を経て、1920年には旧制山形高校へ赴任するが、1年で定年を迎える。その後、同志社神学校時代の親友、留岡幸助が巣鴨で始めた私立感化院「家庭学校」に奉職（1927-1932）。
 11. 新島はつ（1881-?）父甘糟鶯郎病死後、1892年に叔父甘糟三郎の養女として入籍。次に1900年3月31日新島八重と養子縁組をした後、1901年5月に広津友信と結婚。広津との結婚に伴い新島籍を除籍となるが、終生新島八重とは実の娘のように家族ぐるみの交流をした。
 12. 新島（山口）サダ（1880-?）元米沢藩士、京都府下宮津町判事山口源之助の四女。1896年2月3日新島八重と養子縁組をするが、1898年2月24日離縁。新島八重はこの他に、大塚小一郎（1876-?）とも1902年3月15日に縁組、同年6月7日に離縁している。
 13. Miss Weston（詳細不明）半田多喜は東京在住時、「英國婦人ウエストン嬢の私塾に同宿することになった。」「ウエストン女史は、才媛で交際家でもあり、親切な宣教師の一人で、津田梅子女史などとも交際があった」と記している（半田多喜自伝『想ひ出の記』）
 14. 「明治33（1900）年4月のことであったと思う。妹高子が脊髄カリエス症にかかり、福岡大学病院にて手術を受け入院中との報知を兄上より受けて驚き…」（半田多喜自伝『想ひ出の記』）